

海老名市立今泉小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第2回)

- 1 日時 令和7年9月4日(木) 13:25～15:00
- 2 場所 海老名市立今泉小学校 CSルーム
- 3 出席委員 木島智恵美委員、守屋佐千子委員、中野隆則委員、和泉雅幸委員、
築地澄委員、
和田修二委員(校長)、中島忠相委員(教頭)、金指太一郎委員(校長補佐)

4 会議の内容(進行:金指校長補佐)

(1) 開会挨拶(木島委員長)

暑い中、ご出席いただきありがとうございます。2学期は行事も多いので、みなさん
のご協力をお願いします。

(2) 学校長挨拶(和田校長)

2学期がスタートしました。今年は非常に暑い夏でしたが、2学期になり、1学期に
登校を渋っていた児童も登校してくれています。

体育館も改修を終えきれいになりました。後ほど見学いただきます。

本日は、インクルーシブな今小についてや各種情報提供等をさせていただきますので、
率直なご意見を頂きたいと思います。

(3) 学校の様子について

○和田校長 ～ 「すだじい【416号～418】」をもとに説明 ～

(4) 「インクルーシブな今泉小学校」について

○和田校長 ～ 「ひびきあう教育研究発表大会」発表資料をもとに説明 ～

築地委員:勉強する時に姿勢を選べるのは良いと感じた。

和泉委員:説明された方法でいつも授業をしているのか。

和田校長:ご紹介した全ての方法をいつも出来ているわけではない。

和泉委員:フルインクルーシブとは、どのような状況を指すのか。

和田校長:今泉小学校はインクルーシブ教育を行っている。

海老名市は、市内全ての子どもが小中学校でともに学べるフルインクルー
シブな環境を目指している。

※フルインクルーシブとは、地域の子ども誰もが地域の学校に通うことが
できる環境を構築することを指している。

和泉委員：神奈川県もインクルーシブ教育を進めているが、県の方が取り組みが不十分と感じた。

和泉委員：インクルーシブ教育を進める中で、①人手が足りないといったことはないのか。また、②通常級に通う児童の親から、通常級の児童に対してもっと力を入れてくれないかといった声はないか。

和田校長：①人手は足りていない。北欧などでは、20人程度のクラスにサポートスタッフも入るようだ。教職員はもっと多い方が良い。

②そういった考えをもつ方もいると思われる。

中野委員：子どもの頃、落ち着きのない友だちと一緒に勉強をしていた記憶がある。その友人は、机ではなく、土間で勉強をしていたが、私より成績が良かった。その子に合った方法を取り入れることは良いと思う。

○田上教諭 ～ 「学校づくり（校内支援体制）」をもとに教育支援コーディネーターの役割について説明 ～

和泉委員：児童虐待など、児童相談所や警察との連携もあるのか。

田上教諭：児童相談所については、児童虐待だけでなく、子どもに係る様々な相談がある。

和泉委員：子どもの頃、虐待を目にした。当時、学校は関与していなかったと思う。

守屋委員：就学前児童の保護者との連携はいつ頃から行っているのか。

田上教諭：3学期と入学前（9月に見学、2月に面談）です。また、幼保小連携もあり、相互に知ってもらう機会もある。

和田校長：来週、見学会を実施予定です。

守屋委員：ケース会議は、どのようなメンバーで行われているのか。

田上教諭：管理職、コーディネーター、担任、そだちの教室担当、ステップ担当など、該当児童に関係する職員が参加する。

守屋委員：保護者や医師などが参加することも可能か？保護者が委縮することはないか。

田上教諭：電話にて医師等から事前にご意見をいただくことも可能です。

木島委員：幼稚園や保育園から児童の情報をもらうが、入学してみると実際とは異なるケースもあると聞く。また、民生児童委員をしていることから、子どもを持つ親御さんと話す機会があり、「今泉小学校は大規模校だが、大丈夫か」と聞かれることがあるが、大丈夫だと答えている。

守屋委員：インクルーシブ教育という目標が出来たことは素晴らしいこと。また、先生にとっても非常に勉強になると感じた。

和泉委員：定年された教員を活用するような仕組みはあるのか。

和田校長：あります。

(5) 今泉小児童急増対応に係る保護者説明会について

○和田校長 ～ 「今泉小学校児童急増対応に係る保護者説明会」資料をもとに説明
～

守屋委員：校舎増築時の工事車両の動線はどのようになるのか。

和田校長：北側に新しく出入り口を作る予定になっている。

木島委員：令和8年度の運動会はどのように開催するのか。

和田校長：現在のところ未定ではあるが、本年度は児童1100人で、保護者も含めると3500人ほどが校庭に入ることになる。

本年度は、これまでと同様に実施できるが、来年度は、児童1300人、保護者を含めた人数になると今より狭くなった校庭には入らない。よって、分散実施も考えないといけない。

木島委員：令和9年度の運動場の広さはどうなるのか。

和田校長：図を使って説明。狭くなり、児童数が増えるので休み時間には学年を指定して遊ぶような方法をとることも想定される。

和泉委員：横浜市の運動場に比べると十分な広さがある。

和田校長：海老名市は、将来児童数が減っていくことが明らかなので、新しく学校をつくるのではなく、校舎を増築するという選択をするしかなかった。

(6) 情報提供等

⇒空調設備工事改修後の体育館を見学

(7) 閉会挨拶（守屋副委員長）

児童が増えるに伴い、教員も増えることになると思う。教員の不祥事に対して気にしている保護者も多くいる。

教員の管理も大変になっていくが、よろしく願いたい。